

## 会員だより



### 沖縄の史跡・文化財探査

会員の皆様こんにちは、今回は沖縄の史跡・文化財探訪と題して県内の道路に関する史跡・文化財をご紹介します。

うるま市勝連にある『比殿農道』と呼ばれる農道を御存じでしょうか？  
長年、村人は農耕地に通うため急崖な山道を登り



平安名集落を通る比殿(ヒドゥン)農道

降りしていましたが、この交通難を解消するため、昭和7年から同10年にかけて断崖を掘削して築かれたのが比殿農道です。岩を割って取ったという

## 株式会社 國場組 執行役員常務 与那嶺 恵伸

意味から『ワイトゥイ』と呼ばれているようですが、驚くのはその工事がすべて人力で行われている事です。

金鍬や石割棒だけで長さ約150mに渡り岩をくり抜き、高さは最高所で20mもあるそうです。この農道を散策すると垂直にそそり立つ断崖の高さに「本当に人力だけでこの農道を築いたのか」と圧倒されるとともに、3年に及び難工事を完成させた先人達の努力に歴史ロマンを感じます。

この農道は、うるま市の指定文化財にもなっております、お近くを訪れる際は是非ご覧になってみて下さい。

【建設営業部 久高 将一郎】



ワイトゥイの近くにある案内板

## 活動報告・トピックス



### 平成27年度 第34回道路技術講習会



(一社) 日本道路建設業協会沖縄支部では11月24日(火)浦添市の産業振興センター・結の街で道路技術講習会を開催しました。講習会には23社48名の参加がありました。始めに阿部技術・積算委員長が「時代の変化に合わせ、技術力の向上と研鑽に努め、社会のニーズに応えよう」と挨拶しました。第一講義は「舗装の維持・修繕について」と題して大成ロテック(株)九州支社の毛利行洋氏が、道路舗装ストックの老朽化に対処するため、舗装を合理的かつ効率的に維持管理していく必要があるとして、そのための管理目標の設定や調査、維持修繕の各種工法について講義をしました。

第二講義は沖縄しまたて協会技術環境研究所の玉城喜章氏が「沖縄における橋梁の損傷状況、損傷要因及び対策」についてと題して講義しました。橋梁の損傷劣化は沖縄の過酷な自然環境で塩害や使用材料など様々な要因が影響しているとして具体的な損傷状況を取り上げ、その要因と対策について紹介しました。

第三講義では沖縄総合事務局南部国道事務所の小波津秋乃氏と平良有衣氏が「二輪車事故を抑制するための対策」、「道路整備によるストック効果について」と題してそれぞれ講義しました。

小波津氏は県内の二輪車走行特性や、事故特性を分析し二輪車レーンの設置や広報によるマナーアップについて検討した結果を発表しました。平良氏は道路の供用後に道路交通サービスが利用される効果、道路整備に伴うストック効果について



開会の挨拶、阿部技術・積算委員長



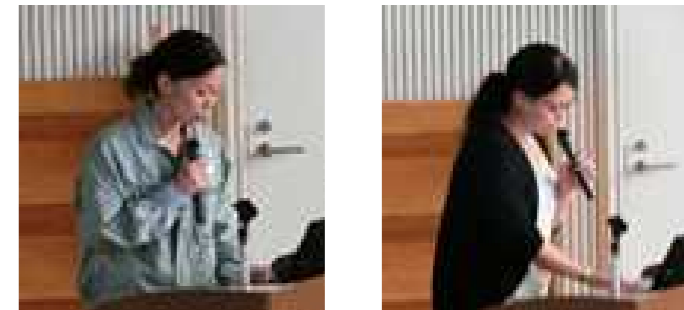
第一講義の毛利行洋講師



第二講義の玉城喜章講師

## 今月の予定

- ①第18回安全パトロール 北部～南部  
12月4日(金) 09:10～
- ②第3回企画・広報委員会 支部会議室  
12月8日(火) 11:00～
- ③第112回道路美化・清掃活動  
前半グループ 12月15日(火)10:00～
- ④第3回幹事会 支部会議室  
12月22日(火) 12:00～



第三講義の小波津秋乃講師

第三講義の平良有衣講師

実際の事例を元に、効果があったか整理・検討した結果を発表しました。講義の後質疑応答があり、活発な応答が続きました。講習会終了後、CPDS受講証の交付がありました。



会場では多数の受講者が、講師の言葉に聞き入っていた!



## 進む建設技能労働者の減少・ 入職しやすい環境づくりを! 編集室 N・S

建設経済研究所の推計では、建設技能労働者の減少が2005年～10年のペースで続いたと仮定すると、10年に266万人だった技能労働者は15年後の25年に141万人(10年比47%減)まで半減するという事です。復興事業や東京オリンピックの加速化でやや持ち直し、減少が一時的に緩やかになることがあっても、労働者人口の減少、高齢層の大量退職が続くことで中長期的な減少は避けられないとしています。沖縄県内でも、技術者の後継者不足は深刻で県建設産業団体連合会に加盟する556社が2015年度に計664人の採用を計画していましたが、実際にはその6割の266人しか採用できていないことが同連合会の調査で分かっています。公共投資や建設需要は堅調に推移している中、求人しても人員が集まらない状況が常態化しています。各業界団体では琉球大学工学部、専門学校、工業高校へ新規採用の働きかけをしていますが期待どおりの成果あがっているとは言えません。

県内建設業の労働災害による死傷者が2014年は174人と13年から2割(30人)増え過去15年間で最多となったと沖縄労働局では発表しています。原因が人手不足によるものかどうかは推測の域を出ませんが、職場環境の悪化が事故に結びつくようなことがあっては、人材確保にも影響が出るでしょう。人材不足に対応するため、建設業界では約3%しかない女性の技術者を増やすため、業界が採用や登用への数値目標や、工事現場周辺に託児所設置などの提言を行っています。また、装着口ボを使って力の弱い女性、中高年のために作業が軽減されるなどの取組も効果があると思われる。他業種でも人手不足感は顕在化しており、建設業界でも対応が急がれます。労務賃金の引き上げ、社会保険の加入促進や女性の登用、中高年の活用など労働環境の整備と共に適正利益で企業体質を強化することも併せて求められます。



器具装着で40kgを楽に持ち上げる!



## ②第111回道路美化・清掃活動

### まるで夏、汗をかいて活動!

11月17日(火)に15社17名の参加を得て第111回道路美化清掃活動を行いました。

天候に恵まれ良いお天気でしたが、夏に戻ったような暑い一日でした。太陽はまぶしく照りつけ道行く人々は、皆半袖かTシャツ姿でした。これも温暖化が進んでいるせいでしょうか。この冬はクーラーを入れて正月を迎えそうです。



太陽の熱と暑さの中、ゴミを集めました!

